

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 社会福祉法人 大原野福祉会 特別養護老人ホーム	階数	地上4階
建設地	京都市西京区下津林南大般若町1.2	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 0.0	評価の実施日	2018年10月10日
敷地面積	2,160.05 m ²	作成者	㈱内藤建築事務所
建築面積	1,348.28 m ²	確認日	
延床面積	3,552.89 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 79%
 ③上記+②以外の 79%
 ④上記+ 79%

0.46923882307522681460652994691378829 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	中庭や吹き抜けを設け、自然採用や自然通風により、快適な環境となるように計画した。また、太陽光パネルの設置や断熱性能の高い現場発泡硬質ウレタンフォームの使用を行い、環境性能の高い建物となるように計画した。井水利用を行い、水資源の有効活用を図る計画とした。	その他 井水利用設備を計画し、水資源の有効活用を図る計画とした。
Q1 室内環境	利用者の温熱環境に応じて、空調を調整できるように、きめ細かい空調ゾーニングとした。また、窓は全て複層ガラスの計画とし、ガラス面の熱損失を防ぎ、空調負荷の低減を図る計画とした。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	外壁面に断熱性能の高い現場発泡硬質ウレタンフォームの吹付を行い、また開口部のガラス面を複層ガラスとし熱損失の軽減を図ることで、高断熱の建物とした。	LR3 敷地外環境
Q2 サービス性能	居室は床面積13.2m ² 以上を確保し、自由度が高く、個人領域を形成しやすい計画となるように計画した。また、トイレに各種手摺を設置する等、福祉施設として求められるバリアフリー性能を有する計画とした。	
LR2 資源・マテリアル	再生ビニルを原料として使用するビニル床シートを採用した。また窓額縁や造作家具に地域産木材(杉・ヒノキ)を使用した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される